## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

	2 3 514171 1770 DC ( 3	-1-17 HOV 17 Z			
	事業所番号	2172600591			
法人名 社会福祉法人 樹心会					
	事業所名	名 グループホーム揖斐川げんき村 木曽の家			
	所在地	在地 岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地			
	自己評価作成日	平成29年7月24日	評価結果市町村受理日	平成29年10月24日	

## <u>※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)</u>

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.mlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou.detail\_2016\_022\_kani=true&i.gvosyoQd=2172600591-008Pref Qd=218VersionQd=022

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年9月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・月1回の認知症カフェを障害者施設と合同で実施している。他のグループホームの利用者も参加してくれている。 ・年数回の外出・外食を実施。
- ・施設内外の研修を取り入れ、研修も出来るだけ多くの職員が受けられるよう時間を確保している。積極的に外部講師を招いての研修も実施している。
- ・共用型のディサービス・ショートスティを運営しており多様な人間関係がある生活環境の中で利用者様が安心して 楽しく過ごせる空間で利用して頂いている。
- ・認知症の個別ケアに力を入れており施設内の庭木の剪定や畑の世話、洗濯干しや調理など利用者個々に馴染みのある活動を継続的に行っていただけるような支援環境を整備しケアに反映させている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は利用者一人ひとりの性格や本心を把握して接することで信頼を得ることが大切であると職員に説明している。職員は情報を共有してその人に合った言葉掛けや態度で接することを心掛けている。身体拘束や排泄、入浴など場面毎で自分がされて嫌なケアを実践しないように話し合っている。マッサージチェアや冷蔵庫、ポット、テレビ、机、椅子など使い慣れた物を自由に持ち込んでいる。家族が水やりなど世話している観葉植物が置かれていたり、利用者の希望で畳と布団の選選べたり個性豊かな居室である。契約時に利用者と家族、事業所が三位一体で取り組みたいと伝え、要望や思いを大切にしている。

## |▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の O 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と O 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	1. ほぼ毎日のように 〇 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 〇 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 〇 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が O 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 〇 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	1. ほぼ全ての利用者が 0 2 利用者の2/3/らいが			

# 自己評価および外部評価結果

## [セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
自己	部	<b>項 目</b>	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.E	<b>里念Ⅰ</b>	こ基づく運営			
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	毎月1回 認知症カフェを開催しており、地域の方や家族様にも呼びかけをし、交流できる場として開放している。又、日常生活の中にやりがい、生きがいを感じてもらえるよう、出来る範囲での家事活動の参加を促したり、馴染みのある物や、関心のある話題等の提供を行っている。	管理者は、理念の中の「個人の尊厳」「専門職」について噛み砕いて説明している。職員は利用者から信頼を得て安心した生活を送るためには、自分だったらどうして欲しいか考えながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	地域の防災訓練や施設実施での防災、避難訓練時には互いに参加し連携をとれるよう努めている。認知症カフェを交流の場として提供しており、全体レクリエーションも行っている。	併設された地域交流スペースで行わる手芸サークルの作品を利用者と見に行き話している。近隣に住む職員の孫が来たり、野菜をもらったりしている。自治会に加入し協力関係を築いている。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	面会時などに、家族様や訪問された方たち と交流し、意見交換をしている。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	入居者様、ご家族に参加して頂き、意見交 換を行っている。	3ユニットのリビングで順番に会議を開催して 利用者も参加している。管理者は事業所の 状況を報告し話し合っているが、地域との距 離感を感じている。利用者が地域と関われる ようにしたいと考えている。	今まで以上に地域に溶け込んで、一 員として生活できるように会議等で話 うことを期待する。
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の勉強会、研修に参加し、意見交換、交流を行っている。又、参加した職員による研修発表を施設内で行い、情報共有をしている。	町主催の施設連絡会や福祉フェアに参加し 担当者と情報や意見を交換している。担当者 に事故報告書を提出したり、書類など解らな いことを聞いたりしている。生活保護の利用 者を受け入れて連絡を密に行っている。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置しており、拘束にあたる案件はないか毎月検討している。定期的に勉強会を実施して、意識を高めており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	利用者と行動を共にして、動機や疑問点など職員間で話し合って見守ることに取り組んでいる。管理者は利用者の気持ちを理解することが大切であると職員に説明している。研修会に外部講師を招くなど計画的に行っている。	
7			外部講師を招いた勉強会の実施や委員会 を設置し、理解を深め、虐待防止に努めて いる。		

		ブルーフホーム 珥斐川けんき村	·		
自己	外	項目	自己評価	外部評価	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	勉強会を開催し学んでおり、対象となる利用 者様には、制度に基づき対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書や契約書を読んでいただき説明を行っている。また不安や 疑問点を尋ねて理解を得ている。納得して 頂いたのち契約の締結を行っている。		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	運営推進会議等で家族や利用者の意見を聞き 実行に努めている。入居者には日常生活で常に 耳を傾け、不満や不安等がある場合は解決に努 めている。家族、友人等面会時には不安な点や 心配事がないか場合によっては尋ねている。	管理者は利用者と家族、事業所と三位一体で取り組みたいと伝え意見や要望を聞いている。利用者から家にいた頃のように元気になりたい、家に戻りたいという気持ちを家族に伝え外出などの協力が得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やホーム会議で職員の意 見や提案を聞く機会を設けており、意見の 交換がなされている。	管理者は全体を把握しながら日頃から職員の意見を聞くように心掛けている。ユニット毎の特徴が出るように働きかけ自主性を大切にしている。物品の購入や行事など職員の意見を反映させている。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員の有給休暇、希望休を聞き、出来る限 り職員の希望に添った勤務体制にしてい る。業務態度や実績などを考慮し、給与や 賞与に反映させている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	施設内の勉強会、町主催で開催される研修 の参加が促され、参加している。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修に参加し、他施設職員と情報 交換や交流をし、サービス向上に取り組ん でいる。		

		/ルーフホーム 揖斐川けんき村	カコ転 <i>圧</i>	M ±0.5±.	<del>-</del>
口即	外	項目	自己評価	外部評価	·
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.5	と心な	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話や家族様から得た情報を通 し、本人が安心して生活できるような関係、 環境作りに努めている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	密接に連絡を取り、要望等に耳を傾け、信 頼関係を築く努力をしている。本人様と家族 様どちらも安心できるケアや環境作りに努 めている。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	事前調査などで本人様、家族が必要としている支援を見極め、出来る限り要望に沿ったサービスを提供出来るように努力している。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において職員と共に家事活動への 参加や、雑談などを通し、本人様が生活を 共有していることを実感できるように努めて いる「。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ケアの方針やサービス内容について家族様 の意見も取り入れ、お互いに協力しながら 本人様を支えていけるよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、友人の方に自由に面会に来ていた だいており、ゆっくりと過ごして頂けるような 場所、雰囲気作りをしている。	知人が来訪した時に再来訪をお願いしている。家族の協力で馴染みの美容室に行く利用者もある。地域のスーパーに買い物に行ったり馴染みのお店に外食に出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握し、ときに は職員が間に入り話題提供をするなどし、 良好な関係を築く支援をしている。		

	グループホーム 揖斐川げんき村					
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>	
	部	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも相談を受け入れる体制、関係作りに努めている。			
${f III}$ .	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン				
		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の生活の中で本人様との会話や表情、 動作などから暮らし方の希望や意向を把握 し、職員同士が情報を共有し、支援していけ るよう努めている。	生活の中で利用者の言葉や態度から気持ち や意向を把握している。困難な場合は家族 から生活歴など聞いて、接し方や声掛けを工 夫し表情や反応から思いや意向を把握して いる。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家様族からの聞き取りを参考にし、 趣味・趣向や生活暦、生活環境等を把握す るように努めている。また、日々の生活の中 で本人の会話や習慣などからも情報収集に 努めている			
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、個々の1日の過ごし 方を把握するよう努めている。また月毎に ADL評価表をチェックしており、現状の把握 に努めている。M			
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を配置し、ホーム会議、サービス担当者会議で担当職員を中心に本人様、家族様の思いや意見を反映させた介護計画書の作成を行っている。	モニタリングは毎月担当職員が行っている。 家族の来訪時や電話で意向を聞き、職員間 で話し合って計画を作成している。記録に関 する研修会を行い職員の気付きやアイディア を計画に反映できるように工夫している。		
27		個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎にケース記録を用意し、毎日ケアプランの実践状況や記録の記入を行っている。業務日誌や申し送り用のノートを活用し、職員間での情報共有を確実に行えるようにしている。			
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人様の状況に合わせ、サービス事業者等と連携を取り、柔軟な支援でサービス提供が行われるよう努めている。			

_		ブループホーム 揖斐川げんき村	·		
自己	外	項目	自己評価	外部評価	西
己	部	<b>人</b>	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを地域行事等に活用 していただいている。		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	かりつけ医以外の医師による往診や受診も	家族や利用者が希望するかかりつけ医を受診している。家族同行で受診する時は体調など書面を渡している。家族が難しい場合は職員が同行している。事業所より往診できるかどうかを医師や家族に相談している。	
31			日常の関わりの中でとらえた情報や気づき を医師に相談を行い、適切な受診や看護を 受けられるように支援している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入退院時の介護サマリーを活用し情報交換 する事で、医療機関との連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	医師と連携し早期発見、早期対応に心がけ ている。ご家族ともその都度話し合いをし対 応している。	職員は利用者の気持ちを代弁し早い段階から家族と話し合っている。かかりつけ医の協力が困難な場合は、家族と相談して協力医に変更することもある。家族と医師、職員と話し合い家族、利用者の意向に添えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	救急対応等の勉強会を施設内で開催しており、動作や手順を実践し急変時に備えている。		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	委員会を設置し、定期的に消防署と連携した避難訓練を行っている。また災害時には 地域住民の協力が得られるよう自治会にお願いをしている。	定期的に避難訓練を行い食料品等を備蓄している。自治会の会議に出席し協力を依頼したり、近隣の方に個別に協力を依頼したりしている。出来ることは協力しますと言われているが訓練等への協力は得られていない。	管理者は、事業所が今まで以上に地域の一員として、地域に溶け込めるような関係を築きたいと考えている。運営推進会議等で話し合う等の取り組みを期待する。

白	外	ブルーフホーム 揖斐川けんき村 	自己評価	外部評	m 1
口即	部	項 目	実践状況	実践状況	
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	共有スペースに2〜3人掛けのソファーをいく つか設置し、他者との交流や個人の時間を 持てる場所として活用している。食事の際の テーブル配置は気の合う入居者を近くにす る等の配慮をしている。	合った言葉かけや態度で接することを心掛け	共有場所において羞恥心への配慮に 欠けた言葉掛けや尊厳や人格を傷つ けるような言い方とならないように職 員間で話し合って欲しい。
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人様が希望や思いを表しやすいよう、職 員側が判断するのではなく、場合によっては 選択肢を明確に提示し、自己決定しやすい ように工夫している。		
38			本人様の生活リズム、ペースを大切にし、職 員側の都合や決まりで対応しないよう、支援 している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	自立の方には衣類は自由に選んでもらっている。困難な方にも何枚か衣類を用意し、選択肢を提示している。また、施設内で希望者には職員が散髪を行っている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	の手伝いを出来る方に協力して頂いてい る。職員も一緒に食事をしている。	畑で採れた野菜やもらった野菜の料理方法など話題にして会話を楽しみながら利用者のペースで食事できるように支援している。家族と一緒にテラスでバーベキューを行うなど楽しめるように工夫している。	
41			場合によっては医師とも連携を行い、一人 ひとりの状態に合った食事形態、食事量で 提供している。栄養士が考慮した福祉メ ニューに基づき、栄養バランスのとれた食事 を提供している。定期的に水分補給の時間 を設けている。		
42			毎食後、口腔ケアの声かけを行い、出来る方には自己にて行っていただいている。介助が必要な方は、職員が口腔スポンジや歯ブラシを使って介助をしている。		

	グループホーム 揖斐川げんき村						
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>		
己	部	<b>¾</b> L	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄 バターンを把握し、適切な時間にトイレ誘導 することで、なるべくトイレ排泄が行えるよう 支援している。	排泄チェック表よりパターンを把握し声を掛けるなどトイレでの排泄を大切にしている。パターンに変化がある場合は分析して職員間で話し合いながら個々に合った支援が行えるように取り組んでいる。			
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	体操や歩行などの体を動かす機会を持ち、 便秘の予防に繋げている。場合によっては 医師とも連携を取り、排泄のコントロールを している。				
45		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その都度本人に 声をかけ、希望に添えるよう努めている。	新規の利用者には同性介助から始めたり、 嫌がられる場合は日を変更したりするなど押 し付けにならないように心掛けている。入浴 時間や湯温など利用者の希望に沿って気持 ちよく入浴できるように配慮している。			
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて日中に臥床等を促している。居室の温度チェックを定期的に行い、いつでも快適な室温になるよう努めている。				
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった際には申し送りやケース記録への記入を行っている。また入居者ごとに薬剤情報をファイルに綴り、確認出来るようにしている。薬の作用副作用については医師の説明を受け理解に努めている。				
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存機能に合わせて、出来る範囲の家事参加やレクリエーションの提供を行い馴染みの活動を行えるよう 努めている。				
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候を考慮し敷地内外を散歩したり、家族 様の協力のもと、外出、外泊等の支援をして いる。	各ユニットの建物が独立して渡り廊下でつながっている。利用者は屋外のベンチで過ごすなど気軽に外出している。帰宅や花火見学など利用者の要望があれば家族に伝えて一緒に外出している。急に外出を希望された場合は職員がつき添っている。			

	グループホーム 揖斐川げんき村					
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>Ti</b>	
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	管理出来る方は自身で管理されているが、 ほとんどは施設にて管理している。本人様 の希望で欲しいものがあれば、家族様とも 検討をし購入したり、希望に添えるよう対応 している。			
51			本人宛の電話や郵便は本人に繋げるように している。応答や返送に関しては本人の意 見を尊重し対応している。			
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている				
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共有スペースに2~3人掛けのソファーをいく つか設置し、他者との交流をしたりするのに 活用している。食事テーブルの座席配置は 気の合う入居者を近くにする等の配慮をし ている。			
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	物を居室に飾り、その人らしい居室作りを心	マッサージチェアや冷蔵庫、ポットなど使い慣れた物を自由に持ち込んで個性豊かな居室となっている。家族の写真や俳句が飾られたり、家族が世話をする観葉植物が置かれたり居心地の良い居室である。		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	転倒のリスクが高い方の居室には、床に緩 衝マットを敷いたり、センサーを設置してい る。居室やトイレが分からない方の為に、分 かりやすいように表札をしている。			

## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591			
法人名	社会福祉法人 樹心会			
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 揖斐の家			
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地			
自己評価作成日	平成29年7月17日	評価結果市町村受理日	平成29年10月24日	

## <u>※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)</u>

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.mhl w.go.jp/21/index.php?action.kouhvou.detail\_2016\_022\_kani=true&ligvosyoCd=2172600591=008P-efCd=218VersionCd=022

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会			
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地			
訪問調査日	平成29年9月14日			

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・月1回の認知症カフェを障害者施設と合同で実施している。他のグループホームの利用者も参加してくれている。 ・年数回の外出・外食を実施。
- ・施設内外の研修を取り入れ、研修も出来るだけ多くの職員が受けられるよう時間を確保している。積極的に外部 講師を招いての研修も実施している。
- ・共用型のディサービス・ショートスティを運営しており多様な人間関係がある生活環境の中で利用者様が安心して 楽しく過ごせる空間で利用して頂いている。
- ・認知症の個別ケアに力を入れており施設内の庭木の剪定や畑の世話、洗濯干しや調理など利用者個々に馴染みのある活動を継続的に行っていただけるような支援環境を整備しケアに反映させている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

٧.	V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの O 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 〇 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 〇 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 〇 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 〇 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが O 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 〇 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は その時々の状況や要望に応じた季	1. ほぼ全ての利用者が			

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .#		<ul><li>○基づく運営</li><li>○理念の共有と実践</li><li>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている</li></ul>			
2	, ,	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	認知症カフェのレクリエーションでは、専門 スタッフを招き実施してる。訪問歯科診療や 往診等、医療分野においても地域連携を 図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	月に1度、しずやまにて認知症カフェを開催して地域の方と密着を図り、レクリエーションや喫茶店を通じて交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	月に1度、運営推進会議を実施しており、入 居者並びにその家族、地域の方を招き、 サービス向上に努めている。		
5	(4)		町施設連絡会に出席し、実施される研修会 に参加を促し、会議等で、情報交流などを 行っている。		
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会より、虐待並びに身体拘束についての正しい知識を習得しており、虐待又は身体拘束防止に努めている。委員会を設置している。		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会より、虐待並びに身体拘束についての正しい知識を習得しており、虐待又は身体拘束防止に努めている。		

		ブルーブホーム 揖斐川げんき村			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>
己	部	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	施設内での勉強会より、権利擁護若しくは アドボカシーについて理解しており、入居者 様に左記制度が該当可能であれば、活用し 取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約の際は、家族様並びに職員の双方が 理解しされたうえで実施されている。疑問点 や不安点があれば、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	家族の面会時、および月末通信を通じて入 居者様の現状をお伝えし、並びに外部から の意見や要望を拝聴して、反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及びホーム会議を通じて、改善点 並びに問題点を洗い出し、向上に努めてい る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	有給休暇および希望休を事前に聞き取り、 勤務状況の把握をしている。職員のモチ ベーション向上に努めている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	施設内での勉強会では、分野専門ごとに講師を招き実施している。また、町施設連絡会で協議された町内研修にも参加を促している。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	町施設連絡会に出席して、同業者と交流している。連絡会において、町の介護職種の 運営や方針も協議され、サービス向上へ努 めている。		

-	外	ブルーフホーム 揖斐川けんき村	自己評価	外部評価	T
口即	部	項 目			
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	えいる	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の生活のなかで、本人様の話を傾聴し、職員同士で協議し、入居者様が安心 して過ごせるように努めている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	本人及び家族様の要望を考慮して、最善の ケアにあたっている。面会時に不安や気に なっていることを拝聴している。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の変化や今後予測される事柄を 見極め、必要なサービス機関を担当者会議 で協議している。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が「できる事」を大切にして、その 人らしい生活を送れるよう支援している。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時や通信を中心に家族様の意見や要望を聞き、サービス向上に努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には本人様と面会の方の話せる場を 設け、必要に応じ職員も会話に参加をし、和 める雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	共同生活を通じて、馴染みの関係に職員・ 入居者問わず合致できるように支援してい る。		

		<u> ブループホーム 揖斐川げんき村</u>			
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	西
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型サービスとして、契約終了の際 であっても、今後も相談や支援をしている。		
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
23		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常生活の様子で気づいたことを職員同士 で協議して支援している。困難な場合は、本 人様の思いを傾聴し支援できるように努め ている。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の生き方や環境を尊重して 支援している。サービス経過を見直し、変化 や今後を考慮しながらケアをしている。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成して、入居者様ひとりひとりの生活パターンを理解している。問題点があれば、職員で協議し支援をしている。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月に1度定期的にモニタリングを施行し、 ADL等の見直しや問題点を洗い出してい る。それらを職員で共有して最善のケアにあ たっている。		
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録において、毎日ケアをする中で ケアプランに沿ったことを記入している。並 びに気づいたことや、いつもと違う事があっ た場合も記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のケアプランを定期的に見直し、 新規ニーズや問題点を見出し、職員及びケ アマネジャーと協議している。		

		ブループホーム 揖斐川げんき村	·		
自己	外	項目	自己評価	外部評価	ti di
一己	部	<b>久</b> 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを地域行事等に活用 している。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	今後予測される状態まで把握し、情報交換		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	かかりつけ医とケアマネジャーと連携し、適 切な医療的ケアを提供している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	かかりつけ医との連携を密に取り、急変時 等も円滑な対応ができるように心がけてい る。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	ターミナル期が訪れた場合、家族様と連絡 を取り、今後の方針や当施設においての緩 和ケアについてカンファレンスを行ってい る。		
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時におけるマニュアルを作成し、日中夜間問わず、円滑なケアをできるように徹底されている。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、災害時想定の避難訓練を実施している。揖斐郡消防署様の職員を講師として招き、当施設で研修を開催している。		

白	外	「ルーブホーム 揖斐川げんき村	自己評価	外部評値	<del></del>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	ッツック 次のステップに向けて期待したい内容
	7-M	人らしい暮らしを続けるための日々の支援	人	大	次のスプランに同じて期付したい刊台
		<ul><li>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</li><li>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを</li></ul>	ス 民 孝 様 の それ ぞれ の 口 課 について、 酔 員		
		損ねない言葉かけや対応をしている	が理解をして、並びに情報を職員で共有し 適切なケアをしている。		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自			
		己決定できるように働きかけている	をしている。しかし、共同生活という意識付けも考慮しながらケアをしている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一	      入居者様のペースややりたいことを把握し		
		人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	て支援している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように	   衣類等は自己決定可能な方は、選択されて  いる。困難な方は職員が清潔保持や身だし		
		支援している	なみに気を配り、散髪及び髭剃り等を施行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み	食事の前後で「いただきます」「ごちそうさ ま」を入居者様及び職員とすることで共同生		
		や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	活の雰囲気つくりをしてる。また後片付けも一緒に行っている。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて	入居者様に合わせた食事量や食事形態、 並びに水分補給において、ケアマネジャー		
		確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	及び職員と相談して、適切な食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一	毎週、訪問歯科診療を設けており、入居者		
		人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	様の口腔内チェック及び、職員への口腔ケ ア指導をしている。並びに実践している。		

		<u> ブループホーム 揖斐川げんき村</u>		-	
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
一己	部	<b>久</b> 口	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様のトイレの訴えや排泄状況を確認 して、自立に向けた支援をしている。またそ れらを記録に残している。		
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	献立表を確認して緑黄色野菜が献立された 場合は、積極的に食事摂取を呼びかけてい る。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様によって希望の入浴順番を聞いて 取り入れている。また、入居者様の気分や 身体状態に合わせて、施行若しくは中断し ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の訴えに応じたり、熱発等の特変時 に応じ、休息や安静時間を提供している。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	ケアマネジャーを中心に薬を管理して、職員 が服薬介助をしている。カルテの薬状を確 認しながら、作用等を確認している。		
48		人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションのほけ、洗濯物たたみや食器拭きなどの家事の参加を促し、入居者自身が役割を見出せるよう支援している。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に家族支援のもと、外出され気分転 換を図っている入居者様や面会時に敷地内 散歩をされる入居者様もみえる。		

		ブループホーム 揖斐川げんき村			
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	入居者様の訴えや、職員がケアをしていく 中で必要性があるものがあれば、相談し適 切なケアで使用するために購入等してい る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	月末に、担当者より入居者様の現状を記載 したコメントと通信とともに同封し、支援をし ている。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や面会者様が写真を閲覧できるように、複数枚をボードに掲載して馴染みを 持って頂けるようにしている。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	フロアにて、入居者様が快適に暮らせるよう に席について職員が配慮している。車椅子 を使用している入居者様も、ソファーでも黒 いて頂けるよう配慮している。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	快適に過ごしていただく為に、エアコンや換気に気を配り、居室に温度チェック表を設けている。本人様が映った写真を貼って飾り、いつでも閲覧できるようにしている。		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	入居者様の居室に表札を設けるほか、本人 ならではの理解できる目印などを表示する などの工夫をしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600591		
法人名	社会福祉法人 樹心会		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 長良の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町志津山378番地		
自己評価作成日	平成29年7月21日	評価結果市町村受理日	平成29年10月24日

## ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai.gokensaku.mhl w.go.jp/21/i ndex.php?action.kouhvou.detail\_2016\_022\_kani=true&li.gvosvoQd=2172600591-008Pref Cd=218Versi onQd=022

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

	評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会			
	所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地			
ĺ	訪問調査日	平成29年9月14日			

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・月1回の認知症カフェを障害者施設と合同で実施している。他のグループホームの利用者も参加してくれている。 ・年数回の外出・外食を実施。
- ・施設内外の研修を取り入れ、研修も出来るだけ多くの職員が受けられるよう時間を確保している。積極的に外部 講師を招いての研修も実施している。
- ・共用型のディサービス・ショートスティを運営しており多様な人間関係がある生活環境の中で利用者様が安心して 楽しく過ごせる空間で利用して頂いている。
- ・認知症の個別ケアに力を入れており施設内の庭木の剪定や畑の世話、洗濯干しや調理など利用者個々に馴染みのある活動を継続的に行っていただけるような支援環境を整備しケアに反映させている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
項 目 取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 〇 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	O 2. 3. 4.	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	O 2. 3.	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	2. O 3.	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	O 2.	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 〇 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	O 2. 3.	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	O 2.	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
	利用者は その時々の状況や要望に応じた季	1. ほぼ全ての利用者が		•	•	

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

## [セル内の改行は、(Alt+-)+(Enter+-)です。]

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
巨	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.	里念「	こ基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	毎月第3水曜日に認カフェを開催している。 認カフェの参加を家族様に促している防災 訓練では地域と連携して行っている。		
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	認カフェ時、家族様や地域の方々との交流 を図っている。月に一度の全体レクリエー ションを行っている。地域の方々との連携を 行い、レクを通し楽しさを提供している。		
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	面会時に、ご家族様等に入居者様」の現状 や支援方法、ケアプランなどについて説明を 行っている。		
4	(3)		入居者様・家族様の参加を促し、参加しても らえるよう連絡を行い、話し合いの場を設 け、意見交換を行っている。		
5	(4)		町内施設職員連絡会に参加し、勉強会で学 んだことを、全職員に情報を提供し情報共 有をしている。		
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、全職員に 身体拘束に関する知識を高める為、勉強会 を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に虐待防止に関する知識を 高める為、勉強会を行っている。日々の中、 虐待のないように職員は取り組んでいる。		

<u> </u>	<u>グループボーム 揖斐川けんさ村</u> 自 外						
自己	部	項目					
	미		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	勉強会等で学び、対象となる入居者様には 制度に基づき、随時対応してる。				
9		〇契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時には、契約書を基に説明をきちんと 行い、入居者様・家族様が不安や疑問がな いようにしている。				
10	(6)	〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	運営推進会議を行い、入居者様・家族様・ 職員・管理者・地域住民・役場の関係者が 参され、他者との連携を図っている。				
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議とホーム会議を月に1度行い、職員が意見を言える場を設け、職員同士が意見交換を行っている。				
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員の有給休暇や希望休、勤務時間を聞き、職員の希望に添って勤務体制を行っている。業務態度や実績などを考慮し、給与や賞与に反映させている。				
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	勉強会に参加出来るよう勤務を配慮し、参加している。施設内では、経験や知識がある職員を中心となり、他職員や新人職員へ 指導も行っている。				
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の施設職員連絡会に加盟・参加し、交 流を図っている。勉強会で学んだ事を必要 時取り入れ、サービス向上に努めている。				

白	外	/ルーノホーム 揖斐川けんさ村	自己評価	外部評価	ш
口即	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Π.7	子心と	- :信頼に向けた関係づくりと支援		1 2 3 7 2 4 7 7 2 2	
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の日々の生活を見守り、不安やいつもと違う様子があれば、本人様に話を聞いたり、職員同士で話し合い解決に努め、 入居者様が安心して過ごせるように努めている。		
16		こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	本人様・家族様の要望を聞くとともに、性格 や生活暦についての聞き取りも行っている。 要望が叶うよう、支援に努めている。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を行い、本人様に他のサービス 機関が必要なのか否かを話し合い、必要な 場合には他のサービス機関との連携を行っ ている。		
18		春りして共にする有向工の国际で采いている	入居者様が自立・自己決定・自己選択を行えるよう、出来ることはして頂き、普段の会話にも決定・選択して頂けるよう、心がけている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時など家族様の話を聞き、家族様の想いも考慮して、ケアに反映出来るよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には本人様と面会の方の話せる場を 設け、必要に応じ職員も会話に参加をし、和 める雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションなどに参加を促すし、利用 者様同士が会話をされたり、また同じ目標を 持って頂けるよう心掛けている。		

	グループホーム 揖斐川げんき村							
自	外	項 目	自己評価	外部評価	西			
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用期間が終了した方に対して も、相談や支援を受け入れる体制に努めて いる。					
Ш.	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	<b>-</b>					
23		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常生活の様子・表情・行動の中で、気になることについては、職員同士で話し合いを行い、支援を行っている。困難な場合は、本人様も交え、同意を得て支援をしている。					
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居者様の生活歴やサービス利用の経過 等を、本人様や家族様から情報を聞き記録 をし、その人らしい生活が送れるよう支援し ている。					
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日の行動や出来事を記録し、その情報を職員同士で共有を行い、支援している。					
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ホーム会議でサービス担当者会議を定期的に実施し、ケアマネ・介護職員と話し合い、 介護計画を作成している。必要に応じ、医師 との連携も行っている。					
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や行動、過ごし方を記録に残 し、職員同士が情報を共有を行い、見直し が必要な際は話し合いをし、介護計画に反 映させている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療体制やケア体制等に限らず、本人様の 生活のあり方などの、さまざまな角度から ニーズを捉えられるように日々対応してい る。					

白	外	7ルーフホーム 揖斐川けんき村 	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまを地域行事等に活用されている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を定期的に行い、必要に応じ他医療機 関とも連携を行っている。		
31		て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	日常生活の中で異変があれば、医師に相 談を行い、医療面での助言や指示の基、対 応している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時にはケア記録などの情報を他医療機 関に提供し、情報交換を行い、連携を行って いる。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	医師と連携し早期発見に努め、家族の思い を聞き、関係医療機関と話し合いを行い、家 族様に説明をし同意の基、支援を行ってい る。。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、施設内での勉強会を実 施し、誰もが対応できるように努めている。		
35			防災委員会を設置し、避難訓練を実施している。地域とも連携を図って、いざという場面での協力体制を取り組んでいる。		

白	<u>・・</u> 外	ルーフホーム 揖斐川けんき村	自己評価	外部評価	<del></del>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	ッ 次のステップに向けて期待したい内容
	2の	人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>大</b> 战状况	大战状况	次のスプラブに同じて期付したい内谷
		へらしい書らして続けるための日々の文版 ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保			
30		○ 人ひとりの与望とフライバン―の確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳保持に努める為に、その人 の考え方や思いを理解することを心掛けて いる。		
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人様が自己決定しやすい声掛けや工夫を行っている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がどうしたいのかを考え、入居者 様の生活のリズムを大切にし、支援を行っ ている。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	本人様や家族様からの要望により、整容や 散髪も行っている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	職員と一緒に、野菜を切ったり、食器洗いを したりしている。食事も一緒に食べている。		
41		応じた支援をしている	入居者様一人一人の状態を考慮した、食事 形態を提供してい。水分補給を定期的に 行っている。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人のカに応じた口腔ケ アをしている	毎食後、入居者様一人一人の状態を考慮した、口腔ケアを行っている。 義歯は毎日ポリデントにつけ、清潔を保持している。		

<u> </u>		ブルーフホーム 揖斐川けんき村	自己評価	外部評価	<b>F</b>
自己	外部	項 目			
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、入居者様の排泄 パターンの把握を努めるとともに、トイレ誘 導などを行い、排泄コントロールを行ってい る。		
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便の状態を記録し、必要に応じ看護師や 医師と連携を行い、排便コントロールをして いる。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	のんびりと入浴をしてもらえるように配慮している。また皮膚トラブルの有無や特変早期発見にも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その時の体調を把握し、必要に応じてベッドで休んで頂いたり、快適に過ごせるよう、温室調整も行っている。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供の確認を行い、症状の変化 があった場合は、看護師や医師に相談を し、指示の基、支援している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の得意分野を把握し、日常生活でのお手伝いをされたり、レクリエーションに取り入れたりしている。		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内外への散歩をしたり、外食を企画し 実施している。家族様の協力のもと、外出外 泊もしている。は		

	グループホーム 揖斐川げんき村						
自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>T</b>		
	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設が管理を行っている。入居者様の希望で欲しいものがあれば、検討をし購入したり、入居者様と一緒に買い物に行くことも実施している。				
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話や手紙の要望があれば、 都度対応している。				
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出す為に、季節に応じて居間などの飾り付けをしている。居心地よく過ごせる 為に、冷暖房の管理を行っている。				
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	ゆっくりと過ごせるように、ソファーをいくつ か設置し、楽しく過ごせるように配慮してい る。食事の席を、気の合う人たち同士を一緒 にしている。				
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	物、本人様が書いた絵などを飾り、その人ら				
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	転倒のリスクが高い方の居室は、夜間時床 にマットを敷いたり、センサーを設置してい る。居室やトイレが分からない方の為に、分 かりやすいように、表札をしている。				